



気づき、考え、実行する茂木っ子

もぎたて通信



令和5年7月7日 第11号

文責：校長 北村 和則

7月生活目標

ていねいな言葉をつかおう。さんづけをしよう。

評価の在り方と指導の一体化

6月15日(木)の職員研修において、長崎市教育委員会教育指導係の高橋泰之主任指導主事さんを講師に招いて、「どうする評価」と題して評価の在り方と指導の一体化について学びを深めました。何よりも、評価について学校全体での組織的かつ計画的な取り組みが確認できました。学習指導要領では「何ができるようになるか」という資質・能力の三観点で全教科の目標と内容が整理されていることも改めて確認できました。



保護者のみなさんには、茂木小の「あゆみ」という形で、学期ごとの学習評価をお知らせします。茂木小学校では、評価の材料として、**テストの点数だけで評価はしません**。もちろん知識獲得や思考においてテスト結果も参考にはしますが、文章による説明やレポートの作成、グループでの話し合いやノート等による表現、授業中の発言や行動観察など多くの記録から評価をしていきます。あゆみには次のように見方を説明しています。

- ☆ あゆみは、子どもののびていくすがたを、学習と生活の両面から記録したものです。
- ☆ 子どもの状態を見つめて、今後の指導や、子ども自身の学習の手がかりになるように評価しています。

また、★学習の様子 「観点別学習状況」の欄について

他との比較ではなく、個々の児童について、各学期毎に各教科の目標に照らして、その実現状況を観点毎に「十分満足できる」を「◎」、「満足できる」を「○」、「努力を要する」を「△」の3段階で評価しています。

と説明しています。

令和の評価は、より良い学び、より良い成長のためにあることをご確認いただき、◎の数に一喜一憂することなく、子どもの励ましやさらなる意欲につながるような声掛けをお願いします。

7月になり1学期のまとめの時期となりました。2学期の励みとなるよう評価をし、子どもたちの学習に対する意欲が増すことを期待しています。